



## 東北大学名誉教授・山下 正廣 先生による学術講演会のお知らせ

### 【概要】

2023年6月6日（火）に、東北大学大学院理学研究科名誉教授・山下 正廣 先生をお招きして、分子磁性材料に関する学術講演会を理工学部9号館にて開催します。

### 【本文】

2023年6月6日（火）に、東北大学大学院理学研究科名誉教授・山下 正廣 先生をお招きして、分子磁性材料に関する学術講演会を理工学部9号館にて開催します。

山下先生は、分子磁性錯体や強相関電子系化合物の物性に関する研究において、日本を代表する研究者の一人です。特に、単分子量子磁石を用いた量子分子スピントロニクスに関する研究や、強相関電子系ナノワイヤー金属錯体において世界最高の三次非線形光学効果を観測したことなど、錯体固体物性分野で顕著な業績を挙げておられます。このような業績により、2020年度日本化学会賞、2014年度錯体化学会賞など、数々の権威ある賞を受賞されています。

今回、佐賀大学を訪問されるのを機に、下記の講演会を開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

### 記

日時：2023年6月6日（火）16：20～17：20

場所：理工学部9号館6階 セミナー室（609, 610室）

講師：東北大学名誉教授 山下 正廣 先生

演題：「分子磁石を用いた量子コンピューターを指向した  
スピンキュービットと超高密度記録素子の創製  
～ 野茂とイチローと大谷はだれが偉いか？ ～ 」

備考：詳細は次ページをご覧ください

以上

学術講演会

# 分子磁石を用いた量子コンピューターを指向した スピנק्यूビットと超高密度記録素子の創製 — 野茂とイチローと大谷はだれが偉いか？ —

東北大学大学院理学研究科

名誉教授 **山下 正廣** 先生

2022年のノーベル物理学賞が「量子もつれの実験的検証」に与えられたが、量子コンピューター開発にとって重要な発見であった。本講演ではまず、量子コンピューターの開発にとって必須の分子スピנק्यूビット開発について紹介する。次に、ムーアの限界を越すために単分子磁石を用いた磁気記録素子について紹介する。最後に、野茂とイチローと大谷の業績を学術的観点から比較考察する。

【講師略歴】1982年3月九州大学大学院理学研究科化学専攻博士課程修了（理学博士）。九州大学助手、名古屋大学助教授、東京都立大学教授を経て、2004年に東北大学大学院理学研究科教授に就任。2020年3月より名誉教授。主な受賞、2004年日本化学会学術賞、2014錯体化学会賞、2020年日本化学会賞など

**日時： 2023年6月6日（火）16:20～**

**場所： 理工学部9号館**

**6階セミナー室（609, 610）**

**問い合わせ先**

〒840-8502

佐賀市本庄町1番地

佐賀大学理工学部化学部門

鯉川 雅之

TEL: 0952-28-8549（研究室）

E-mail : koikawa@cc.saga-u.ac.jp